

滋賀県がん診療連携協議会・第2回緩和ケア推進部会 結果概要

日時：平成22年11月17日(水)17:00～

場所：成人病センター東館1階講堂

【部会長】成人病センター 堀科長

【副部会長】公立甲賀病院 沖野副院長、彦根市立病院 黒丸囑託部長、

【部会員】滋賀医大病院 奥野看護師長、大津赤十字病院 三宅部長、川合看護師、

成人病センター看護部 辻森主査、公立甲賀病院 柴田看護師長補佐、

彦根市立病院 秋宗科長補佐、市立長浜病院 花木部長、がん相談支援センター尚江(代理)、

ヴォーリス記念病院 細井部長、岩本整形外科 岩本院長、社団法人滋賀県薬剤師会 古武、

滋賀県がん患者団体連絡協議会 菊井会長(代理)、岡崎運営委員、

滋賀県医務薬務課 要石主幹、

【滋賀県健康推進課】加賀爪副主幹

【事務局】成人病センター医事課 田中、経営企画室 沼波

【欠席部会員】滋賀医大病院 遠藤教授、市立長浜病院 宮崎看護師、大津市民病院 津田部長、

大津市民病院 北林看護科長、ヴォーリス記念病院 岡田病棟師長、

社団法人滋賀県医師会 橋本理事、社団法人滋賀県看護協会 長嶋、

滋賀県がん患者団体連絡協議会 北川

議題

1 部会長あいさつ

(堀部会長)

今年度は医師対象の緩和ケア研修の他に看護師対象の緩和ケア研修も開催することができ、少し取組が前進しました。一方で在宅緩和ケアにはまだ課題があります。地域性も非常に大きいので、全体を底上げしていく必要があります。長い目でみていかなければならない問題ではないかと思えます。

2 緩和ケア研修会の実施状況等について

・彦根市立病院、滋賀医科大学医学部附属病院より、参加人数、内訳等について説明があった。

(彦根市立病院)

9月5日(日) A研修 受講者24名(内訳 医師17名、看護師7名)

9月12日(日) B研修 受講者20名(内訳 医師13名、看護師7名)

修了者 19名(内訳 医師12名、看護師7名)

(滋賀医科大学医学部附属病院)

10月16日(土) A研修 受講者17名(内訳 医師9名、看護師7名、薬剤師1名)

10月17日(日) B研修 受講者15名(内訳 医師6名、看護師8名、薬剤師1名)

修了者 13名(内訳 医師6名、看護師6名、薬剤師1名)

(事務局)

日本医師会生涯教育制度カリキュラムコードの申請について協議をさせていただきます。

本研修は、本年度より単位型統一研修として共通のカリキュラムで実施しておりますが、日本医師会の生涯教育制度の指定講習会としてカリキュラムコードを申請することにより、5単位が取得できることとなっています。

単位の申請については、各主催会場病院から滋賀県医師会に個別にカリキュラムコードの申請が行われ承認されていましたが、これは本研修が共通のカリキュラムで行われているとの認識が医師会になかったため、結果としてバラバラのカリキュラムコードで承認がなされてしまいました。

この度、資料のとおり滋賀県医師会より本研修に係る推奨カリキュラムコードが示され、コードの統一を図ることとなりました。本日の部会で承認をいただけましたら、今年度の年度当初に遡って、医師会の方で統一カリキュラムの承認をいただけることとなりますので、医師会の推奨カリキュラムコードについてご承認をいただきたいと思います。

また、ご承認いただけましたら、来年度については年度当初で一括して滋賀県医師会の方にカリキュラムコードの申請を行いたいと考えております。

(堀部会長)

よろしいでしょうか。よろしく申し上げます。

いろんなノウハウが積み重なって来ていると思うので、今後、部会の中で情報交換していければ、今後の緩和ケア研修の充実に役に立つのではないかと思います。

3 世界ホスピスデー記念県民公開講座の結果について

(事務局)

10月9日土曜日に、大津市のピアザ淡海で開催しました。当日はあいにく雨のため、参加者は106名(医師11名、医療関係者65名、一般参加者30名)に留まりました。

参加者アンケート結果によると、一般が約43%、医療関係者が57%、性別は男性が29%、女性が71%で、一番若い方では20歳、最高齢の方では81歳の方に参加いただいています。県内各所、県外からもお越しいただいたところです。

総評では、大多数の方から「とてもよかった」、「よかった」の評価をいただいております。

来年度2011年度の世界ホスピスデーについては、10月8日の土曜日となります。

(堀部会長)

ありがとうございました。各病院での緩和ケア講演会の取組はどうか。成人病センターでは4月に緩和ケア県民公開講座を開催しました。

(公立甲賀病院)

10月30日に住民に対する健康講座で緩和ケアの話を各職種でリレートークのように開催しました。

(堀部会長)

各病院でも講演会をやっていただければありがたい。

年に1回打ち上げ花火的にやるよりも、こまめに小さい会を開く方が効果的だと思います。裾野が広がると思いますので、お願いしたいと思います。

4 平成22年度第1回看護師対象緩和ケア研修のまとめ

(成人病センター)

今年度は第1回目の看護師対象の緩和ケア研修会を、9月7日から10日までの4日間、講義を一日、緩和ケア病棟の見学実習を3日間という形で開催し、5名の方に参加いただいています。

担当者の検討事項と研修受講者のアンケート結果をまとめました。

問題点ですが、一日の講義時間では短く、二日間位の方が、ゆっくり講義内容を検討できるのではないかと思います。事例検討の形で演習をしたのですが、あまり意見が出ませんでした。全体的な問

題点としては、今回は募集期間も短かったので、来年度は余裕をもって、募集したいところです。

看護協会の指導者研修が2か月間あるのですが、病院側としては数名出していると、新たに研修に出すことが難しいという意見がありました。この研修の位置づけを、もう1回考えていけないといけないのかなというのと、研修中の保険や実習中の事故の補償はどうするのかという疑問も出てきました。

研修生からの記述式のアンケート結果ですが、講義に関しては、研修生からは、緩和ケアの知識を理解できたとか、根拠から理解できたということで、知りたい内容が積もっていたというプラスの評価を受けています。演習には、研修生の方からも事例検討が難しくてわかりにくかったという意見も出てきました。実習は3日間と少なかったという意見もありましたし、患者さんをひとり受け持って取り組みたかったという意見もありました。緩和ケアチームでやっていきたいとか、緩和ケア認定看護師を取得したいという方もおられました。緩和ケアチームとして病棟ラウンドしているのを見たかったという意見もあり、それを考えると実習期間3日間は短いかと思います。

次年度も看護師の緩和ケア研修は必要ですし、講義だけでなく実習は必要と考えますが、現在実習施設は、拠点病院である彦根市立病院と成人病センターの2施設だけで、各2施設とも他の病院の実習受入も行っており、回数増や期間延長に関しては、今後も検討が必要です。次年度に関しては、未定です。

(堀部会長)

難しい問題もあるとは思いますが、がん対策推進計画に、「拠点病院は看護師に対する緩和ケア研修を行う」という文言があり、そこが根拠になっています。実際に緩和ケア病棟で研修ができるというのも少ないと思うので、意義があるのかなと思います。講義だけではなく、実習があると違うと思うのですが、彦根市立病院さん、どうですか。

(彦根市立病院)

実習して初めて理解できるものがあると思うので、実習があつてよかったという評価だと思います。先ほど言われたように、二施設とも県立大学の実習とか他の養成施設の実習と認定看護師の実習と受け入れている時期がほぼ一緒だったりすると、日にちを見つけるのが非常に難しく、担当者側も非常に大変なので、それぞれ3,4名くらいが限度だと思います。総数で6名から8名の募集しかかけられないので、それでよければこういった形でやっていけるとは思います。実習施設の拡がりが可能であるかが課題だと思います。

(堀部会長)

拠点病院ではないので義務はないのですが、ヴォーリス記念病院と大津市民病院にお願いできるというのですが、大津市民病院は支援病院になりましたので、頼みやすくなったということはないですか。

(協議会事務局)

実習施設として、研修を実施いただくとなると微妙かもしれません。県は、支援病院から協力内容について、いまだに決められていないようですので、実習施設という協力をいただけるかどうか、またそれが無償なのかどうか不明です。

(堀部会長)

現状では、3人~4人、総数8人くらいが限度ですね。来年度の開催回数は考えておられないですか。

(成人病センター)

今年度と同じ時期なら開催できますが、追加の開催はやるとすれば9月より前になります。

(堀部会長)

次回の部会では、年間計画が作れるかどうかを検討事項になりますね。医師の緩和ケア研修は年間計画を立てると良い。問題はありますが、取り組んでいただきたいと思う。

(県医務薬務課)

今年度は、病院の看護師を中心にさせていただいたのですが、在宅緩和ケアを拡げていくという部分で、訪問看護ステーションの看護師も受け入れていただけるような研修なども検討いただけたらと思います。県として一緒にやりたいと思うので、今後ご相談させてもらえればありがたい。

(堀部会長)

在宅の看護師さんにも拡げるのはどうですか。

(成人病センター)

成人病センターでは、湖南圏域の訪問看護師さんの一日見学実習等を数年前からやっています。

5 緩和ケア推進に係る意見交換について

(堀部会長)

患者会の方、何かございませんか。

(がん患者団体連絡協議会)

患者同士でも緩和ケアの話をするのはとても難しい。緩和ケアに行かれたら良いのにも思っても、何と言って勧めれば良いか言葉が見つからず、言えないことがあります。難しいです。

緩和ケアの講習会を受けた時に、緩和ケアは初期からだという話を先生方からよく聞きます。

私達も緩和ケアは初期からどんどん受けたら良いと思いますが、そもそも初期の方が受けるというのは、どういう状況のときに受けるべきものでしょうか。初期の精神的なことなのか、術後の痛みなどを感じる時に受けるのか、そのあたりがわからない。

(部会長)

WHO の定義では、疾患の早期より痛み、身体的問題、心理的問題等について対応していくこととされています。そのあたりがまだうまく伝えられていないのかもしれない。

(がん患者団体連絡協議会)

皆様、緩和ケアについて研修その他いろいろなことに取り組んでいただいて、感謝しています。

私事ですが、家内が先生から「いろいろと今までやってきたけど、もう打つ抗がん剤がなくなった。どこか痛くなったら来てください。」という言い方をされました。今まで頑張ってきただけにショックでした。「少し待てば何か良いことがあるかもしれませんよとか、いい薬が出てくるかもしれませんよ」などと言ってもらえたら、そこまで落ち込まなかった。勇気づける言葉があれば良いなと感じました。言葉一つにも、患者や家族はショックを受けますので、是非そういうところもお願いしたいと思います。

(堀部会長)

医師は言葉に気をつけないといけません。我々も充分留意しましょう。

貴重なご意見をありがとうございました。

6 その他

(協議会事務局)

「滋賀県地域がん診療連携支援病院の整備に関する指針」があり、これは拠点病院の指針と同じような内容ですが、拠点病院よりもハードルは低くなっています。

指針の 2 研修の実施のところに、「)拠点病院が実施する別途定める「プログラム」に準拠したがん医療に携わる医師を対象とした緩和ケアに関する研修に協力および参加すること」とあります。

県にも確認しましたが、どのような協力が得られるのかが明確ではないので、当面は参加協力程度か

もしもませんが、支援病院のある圏域の拠点病院におかれては、こういう文言があるということを取りあえず知っておかれると良いかと思ひます。

(部会長)

そういうことですので、ご了解ください。

次回の部会日程を決めておきたいのですが、いかがでしょうか。

それでは、次回の第3回部会は、2月16日(水)ということでお願ひします。

来年度は、緩和ケア研修のカリキュラム変更を行ってはどうかと考えますので、次の部会で検討したいと思ひます。

それでは、お疲れ様でした。